

平成20年岩手・宮城内陸地震により発生した 河道閉塞（天然ダム）箇所の湯浜地区の水位観測 について

●水位観測について

険しい地形から進入が困難だった湯浜地区に、本日午前11時、加藤河川工事課長、小松施工企画課長及び測量等のための調査員がヘリコプターにより現地に降り立ちました。現在、調査員による現地測量調査を実施しています。

また、水位計を（詳細は別紙を参照願います）、本日12時頃ヘリコプターにより投下し、水位観測を開始しました。13時から16時までの3時間で3cmの水位上昇を観測しております。

今後、現地測量結果を踏まえ、越流する危険があると考えられる水位との高低差等を、お知らせいたします。

（発表記者会）宮城県政記者会、岩手県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会
また、東北地方整備局災害現地対策本部（栗原市役所内）においても配布しています。

（問い合わせ先）

東北地方整備局 河川部 河川調査官 久米 英輝（内3513）
夜間直通 022-261-7305

住所 仙台市青葉区二日町9-15

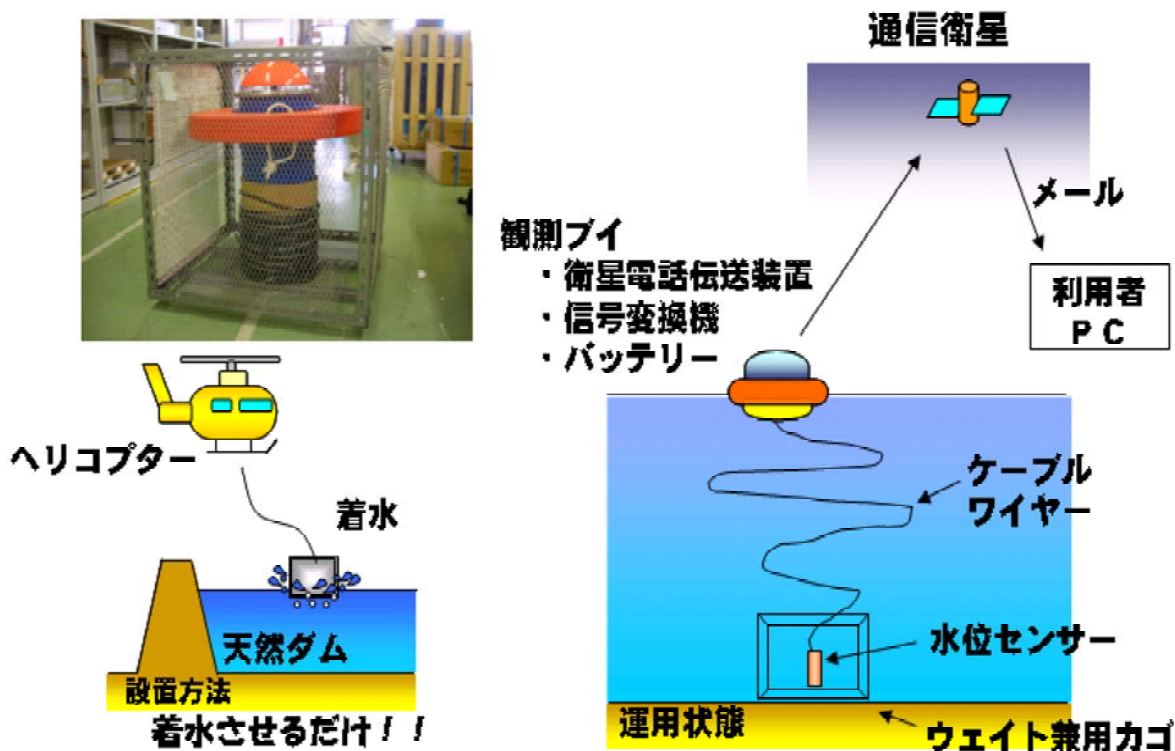
電話 022-225-2171（昼間）

平成 20 年岩手・宮城内陸地震により発生した 河道閉塞（天然ダム）箇所での湯浜地区の水位観測 について

迫川の上流で、これまで険しい地形から水位計の設置が困難だった湯浜地区の河道閉塞（天然ダム）において、明日（5日）、ヘリコプターにより水位計を投下し、水位観測を開始します。この水位監視システムは、衛星電話回線を使用して水位変動量の観測を行うもので、独立行政法人土木研究所が今回の地震後に急遽開発したものです。

天然ダム緊急水位監視システム 『土研式投下型水位観測ブイ』

- ・ヘリコプターからの投下設置、即時運用が可能
- ・衛星通信システムを利用するため伝送システムの新たな構築が不要
- ・内部バッテリー使用可能なため発電機等が不要
- ・観測データは一定時間ごとにメール配信





土研式水位計



運搬用ヘリコプター



土研式水位計運搬状況



まんなか号から撮影



土研式水位計投下状況



土研式水位計着水状況